

Q&A

胆道鏡が有用であった肝内胆管拡張の 1 例

【問 題】

症例：79 歳，女性。

主訴：特になし。

現病歴：肝機能障害，抗核抗体 1280 倍，IgG 1683mg/dL と高値を指摘され，自己免疫性肝炎の疑いで当院当科紹介受診した。前医で処方されたウルソデオキシコール酸で血液検査所見は改善傾向であったため，外来で画像にて経過観察されていた。翌年の MRCP にて後区域の肝内胆管拡張を

認め，精査目的に入院となった。

既往歴：脂質異常症，甲状腺機能低下症。

家族歴：特記事項なし。

生活歴：飲酒なし，喫煙歴なし，アレルギー歴なし。

現症：バイタルサインは正常，その他身体所見にも特記所見なし。

血液検査所見：WBC $5.5 \times 10^9/L$ ，RBC $4.02 \times 10^{12}/L$ ，Hb 12.8g/dL，ALP 236U/L，AST 17U/L，ALT 13U/L，LDH 169U/L， γ -GTP 127U/L，T-Bil 0.63mg/dL，Alb 3.8g/dL，CRP 1.79mg/dL，

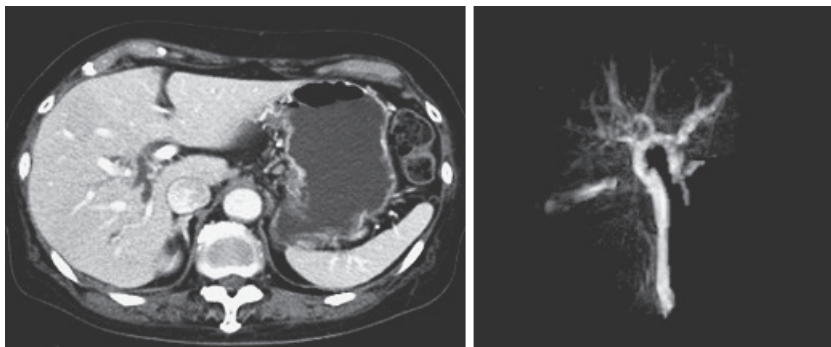


Figure 1. 左) CT, 右) MRCP.

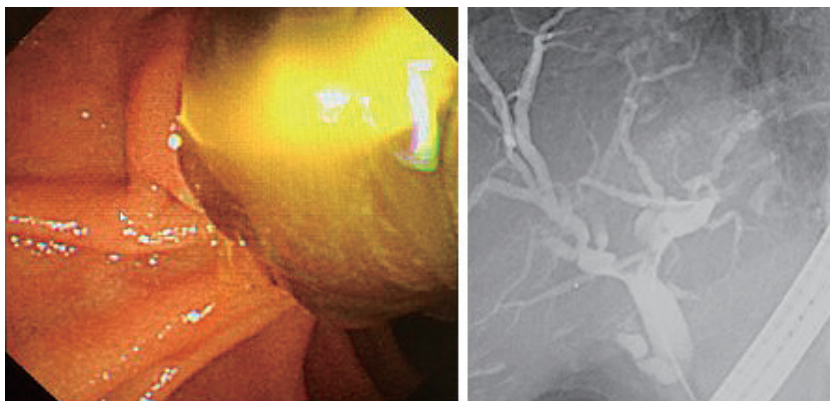


Figure 2. 左) ERCP 内視鏡画像, 右) 透視画像.

CEA 1.2ng/mL, CA19-9 116U/mL.

画像所見：造影 CT, MRCP を Figure 1 に,
ERCP 画像を Figure 2 に示す.

**臨床所見, 画像所見から考えられる診断
は？**